

## 浦和の活動家 意見交換会【トークセッション】 議事録概要版

---

【テーマ】浦和の魅力や課題

【開催日】令和4年7月18日(月) 10:00~12:00

【参加者】

登壇者(五十音順、敬称略)

池本 洋一 (株式会社リクルート SUUMO 編集長 兼 SUUMO リサーチセンター長)

菊地 順子 (NPO 法人 Arts & Health さいたま代表理事)

堀 哲郎 (らしく株式会社 代表取締役)

松原 満作 (一般社団法人バイクロア代表理事)

三ツ口 拓也 (一般社団法人うらわ Clip 代表理事)

コーディネーター

宮本 恭嗣 (さいたま市 PPP コーディネーター)

【意見概要】

(松原氏)

- ・ 東京では埋もれてしまう人が埼玉で活躍できると聞いたことがある。若い人がチャレンジするには家賃が上がりすぎてしまっている。
- ・ さいたま市でも何かやってみようという人を支援できれば、人材が流出しないようにできるのではないか。

(堀氏)

- ・ 国勢調査や税務統計、企業の決算書から読み解くと、浦和には比較的高額所得の家庭が多い。
- ・ 浦和全体のお金の流れを見ると、入ってきたお金の行き先は浦和の大型店舗や地元ではなく、水道光熱費などの固定費や旅費、保育料などに出て行っていて、地域にお金が循環する状況になっていないことが分かった。
- ・ 将来的に手取りの給与収入は減ってしまうと思う。でもこのお金が地元に着ることによって派生効果が発生し地域循環の経済が成り立つと思う。

(三ツ口氏)

- ・ 浦和 Clip という団体は、地域の個人店の域内の経済循環が一つのテーマであり、もう一つは、この団体は子どもがいるパパ友で繋がっていて、子どもたちがこのまちの魅力にいかにも多く気付けるかをテーマにしている。
- ・ 団体員は普段は会社務めをしているが、子どもたちの居場所をまちの中にもっといっぱい作りたいと思っている。それにより、地域に愛着がわき、ひいては消費行動にもつながってくると思う。
- ・ まちへの関わりしろが多くあることがとても大事だと思う。
- ・ 子どもたちの居場所づくりでもあり、自分たちの居場所づくりでもある。その時に、まちの中で使っていない活動ができる場所がたくさんあるといいと思っている。

(菊地氏)

- ・ 素晴らしい市民活動をしている人がたくさんいるが、横の繋がりが薄い。浦和というまちは困っていることがあまりなく、一つの課題をみんなが一致団結して話し合い、自分たちで自分たちのまちを作るという意識が薄いからだと思う。
- ・ 市民から様々な意見が出ているが、行政が政策形成に反映していない。特に公共施設を使うのは市民であり、市民の意見を聞いて、市民が使いやすい施設にしてほしい。
- ・ 若い世代でもすばらしい活動している人もいるが、やはりうまく連携できておらず、また活動場所がないのでアピールができていない。

(松原氏)

- ・ 佐賀県で裏門通りと似たような路地があり、そこではデザイン会社が入って路地をデザインし、ベーグル屋やドーナツ屋を始めたりしていた。
- ・ タワーマンションの建設時に1階はテナントとして貸し出せば地域のコミニケーションが生まれ、安心して暮らせる環境になると思う。

(三ツ口氏)

- ・ デベロッパーは営利企業なので、1階部分にテナントを入れるというのはやりたくない。一定規模の開発では空地を設けなくてはいけないので、そこにキッチンカーが入れるような作りにするなどうまくデザインすることで、建物内でできなくても賑わいを生むことができると思う。そのためにはデベロッパーの意識改革も必要だし、それを後押しする行政の政策も必要になると思う。
- ・ 昔は使われていない土地がたくさんあって子どものたまり場になっていたが、今はそういった余白が無い。公園にしても禁止事項ばかりになっているが、やれることは何かして発信するような仕組みづくりがあれば、それだけでも関わりしろが変わるかなと思う。

### 浦和のまちづくりへメッセージ

(松原氏)

- ・ 公共空間を行政がオープンにして、中山道の歩行者天国や別所沼で花火を上げるなど、エモーショナルなことをもう一度やってみるということを行政に期待したい。

(菊地氏)

- ・ まちづくりは人づくりから始まらなければいけないと思っていて、人と人の繋がりがこれからも大事なので、今後もいろいろな連携をしていきたい。

(堀氏)

- ・ 浦和は恵まれていると思う。その中で知らないことが多くあると思っていて、出てきた課題に対して数字から見える化して主体性を持つ取組をしていきたい。

(三ツ口氏)

- ・ とりあえず困っていない、仕事で忙しい浦和の人が市民活動に参加するには、屋上遊園地を復活させるなど、空間にエモーショナルな意味づけをしてデザインで可視化することが必要で、このような関わりしろがまちの中に多くなるといいなと思う。

以上